

LD児を含む子どもたちの 理想的な英語学習を考える

-ディスレクシアや各種の障害の視点から-

2020年度から公立の小学校で英語が教科となり、第二言語として英語を学ぶ時期が早まります。この状況下で、学習障害をはじめ、視覚障害やろう・難聴の子どもたちは言葉の学びに困難を抱えます。

そこで、学習障害の1つ、ディスレクシアの専門家のワイデル・タエコ先生をお招きし、現在の英語教育の問題や、理想の英語学習についてご講演いただきます。第二部は視覚障害の子どもたちに英語を教えてこられた股野儼子先生にもご登壇いただき、各種の障害の理想的な英語学習について議論します。

2019年12月6日(金) 16:30~19:00

津田塾大学小平キャンパス5号館【5101教室】

参加無料・要申込

(お申し込みは裏面のQRコードからお願いします)

●第1部 講演会

16時30分~18時00分

LD児を含む子どもたちの
理想的な英語学習を考える
-異言語・異表記の視点から-

講師：ワイデル・タエコ先生
(英・ブルネル大学教授)



●第2部 パネルディスカッション

18時10分~19時00分

インクルーシブな英語学習を考える
-ディスレクシア・視覚障害・難聴の視点から-

ワイデル・タエコ先生 (英・ブルネル大学教授)
股野儼子先生 (筑波大学附属視覚特別支援学校非常勤講師)
柴田邦臣先生 (津田塾大学学芸学部准教授)



【主催】津田塾大学インクルーシブ教育支援室

【助成】

お問い合わせ

inclusive_events@tsuda.ac.jp

NOMURA 野村財団

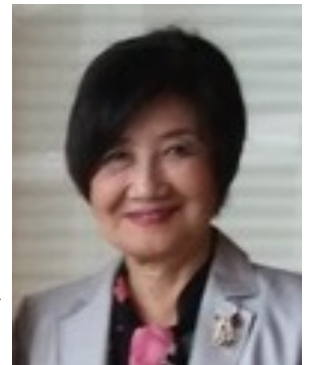
講師のご紹介

ワイデル・タエコ先生

日本生まれ、英国ミドルセックス大学卒業後、ロンドン大学にて博士号を取得。英国心理学学会(BPS) 認定の公認心理学者。UCLを経て、英国ブルネル大学の教授(2004-現在) NTT 基礎研究所 [厚木] 海外招聘研究者(1996-2000); 京都大学医学部大脳病態生理学研究科・海外研究者(2000); フィンランド工科大学・EU招聘科学者(2000-2003); 筑波大学人間科学・海外客員教授 (2004-2018); 香港教育大学特殊教育・研究コンサルタント(2014-現在)として共同研究をする。研究テーマは、読みの過程の「異言語間の普遍性と特異性」で日本語・英語・フィンランド語・スペイン語・トルコ語・中国語の大人・子供の健常群・ディスレクシア群を対象にニューロサイエンスを含めた科学研究。

股野儼子先生

津田塾大学英文学科13回卒。約15年にわたり、海外7か国8都市に在住。その間英米では母語として、他国ではL2としての初等英語教育法を見聞し、津田英語会において長年独自のメソッドによる「初等英語教育」に携わる。現在は、練馬区や港区の公立小学校での指導経験も生かし、2011年度より筑波大学附属視覚特別支援学校幼・小学部で視覚障害のある児童に英語を教えている。



柴田邦臣先生



津田塾大学学芸学部国際関係学科准教授、インクルーシブ教育支援室ディレクター。専門はインクルーシブ教育、社会学。近年はEdTech（教育におけるテクノロジーの導入）に注目しており、テクノロジーによる難聴児や学習障害児の学習支援について考えている。

なお、同日14:40-16:10に5102教室にて、ディスレクシア英語塾「もじこ塾」主宰 成田あゆみ先生の「読み書き困難（ディスレクシア）のための英語指導法に向けて」講演の録画を上映いたします。詳しくは津田塾大学インクルーシブ教育支援室Facebookをご覧ください。

アクセス

東京都小平市津田町2-1-1

津田塾大学5号館 5101教室

鷹の台駅より徒歩10分、新小平駅より徒歩15分

右のQRコードよりお申し込みください。

